



あいさつと「ありがとう」の言える子ども

これは三豊市教育委員会が示している“目指す子ども像”の1つです。三豊市内には、小学校が25校、中学校が7校あり、各学校とも重点的に取り組んでいます。どの学校の子どもたちが一番できているかを調べることは難しいですが、自分たちの学校は「できています」と自信を持って言える学校になってほしいと思います。元気のいい小学生にはかなわないかもしれませんが、7つの中学校の中で「詫中が一番！」と思えるように、そして周りの人からも言われるように、全力であいさつとありがとうに頑張ってみませんか！

さて、『ありがとう』というタイトルがついた歌がたくさんあります。最近では、いきものがかりやファンキーモンキーベイビーズ、ひと昔前なら、井上陽水・奥田民生やSMAPなどが有名です。これらの歌が人々の心に響くのは、「ありがとう」という言葉の魅力だと思います。

また、最近、『ありがとう、先生！』（飯塚書店出版、TOKYO FM「ジブラルタル生命Heart to Heartありがとう先生」番組制作チーム監修）という本が発売されました。この本には、全国のリスナーから寄せられた“先生からもらった忘れられないひとこと”がいっぱい詰まっています（右にその一部を掲載しました）。

私たちも、生徒たちの心に響く“ひとこと”がかけられるよう、がんばっていきたいと思います。

- ◆ 「辛い」という漢字を「幸せ」という字に変えるのは、自分の努力と思いやる心。
- ◆ 「なんとかなる」ではなくて「なんとかする」。
- ◆ 向き、不向きより、「前向き」。
- ◆ 笑顔にまさる化粧なし。
- ◆ 努力は素質を上回り、気力は実力を超える。
- ◆ 道がないわけじゃない。歩こうとしないだけだ。
- ◆ 努力している人は希望を語り、怠けている人は不満を語る。
- ◆ 一生懸命働けば知恵が出る。中途半端に働くと愚痴が出る。いい加減に働けば言い訳が出る。
- ◆ 「明日やろう」は馬鹿野郎。
- ◆ お互いがそっぽを向くと、地球1週分の距離になる。

スリッパが足りなくなりました

昨日、第1回浦島デーがありました。校門付近で車が渋滞するほどの混雑で、受付でも準備していたスリッパが不足するほどでした。授業参観は約85%の参加率で、これまでで一番高いのではないかと思います。学級PTAも昨年より約15%も高く、学級役員も決定することができました。総会も半数を超え、部活PTAも65%を超えました。すべてで参加率アップとなり、保護者の関心の高さがうかがえました。

また、竹林PTA前会長からもお話がありました。今年、保護者の参観態度が大変よく、真剣に授業を見ていただいている姿が数多く見られました。全力で学ぶ、全力で教える、全力で観る、「生徒・先生・保護者が全力で過ごす日」であったことをたいへんうれしく思います。“全力が学校を変える”ことを実感した一日でした。ありがとうございました。

